

特集 **へいちく**
「なの」はな号



↑万全の整備を終え、出発に備える「なの」はな号。ちく丸くんも準備オッケー。

→お客さまの大事な命を必ず守る車両。整備は細心の注意が払われ、時間と労力を惜しまずに続けられていく。



↑構内にずらりと並んだ現行車両。安全な運行に向けて、万全の整備が行われている。



←試運転では、車内設備等も各項目ごとに慎重なチェックが行われた。

↑最新式車両を熟知するために繰り返される試運転。指差喚呼(しさかんこ)で安全を常時確認。

←非常用のドアロック。緊急の場合も迅速な対応ができるように、しっかりと動作確認を行う。

このたび、平成筑豊鉄道では、国・福岡県・沿線9市町村と沿線地域のみなさまの支援により長年の課題であった新型車両を導入することができました。「へいちく」の経営は今、厳しい状況に直面しています。この危機を乗り越えるために、新型車両を活用した今まで以上に安全で快適なサービスや、さらに楽しいアイデア企画に全力で取り組み、「地域のみなさまに愛されるへいちく」を目指して日々努力していきます。これからも、みなさまの温かいご声援をよろしく願います。



平成筑豊鉄道(株) 代表取締役
出島 静吾 専務



↑「あたらしいきしゃ」に手を振る子どもたち。みんな「へいちく」も「ちくまるくん」も大好き。ずっと近くで、いつまでも走っていてね...

中は車社会ですが、学生や高齢者をはじめ、たくさんの方が困っています。基幹産業がなくなり、鉄道も姿を消してしまえば、地域に暗い影を落とし、イメージダウンは避けられません。かつて、国鉄からJRに引き継がれ、廃線の危機に直面していた赤字路線でした。地域が必要を訴えてスタートした「へいちく」。しかし、自家用車の普及や少子化などによって乗客が減り、好調を支えていた貨物輸送の収入もなくなり、厳しい状況に直面しています。このピンチを乗り越えるためには、へいちく自身のがんばりはもちろん、みなさんの関心と積極的な利用が

ぜひ必要です。地域が立ち上げた「へいちく」は、地域の足としてだけでなく、なくてはならない沿線の財産です。新しい顔「なの」はな号が、これからもずっと元気に駆けまわられるように、地域に暮らすわたしたちの手で守っていきましょう。



↑金田駅のホームで肩を並べる400型車(左)両と300型車両(右)。



↑「花」「山」「川」「空」デザインのモデルとなったふるさとの風景、豊かな自然の中をひた走る。



↑「朝のラッシュ」時は特に人が多いので、広くなってきたんです。木戸龍馬さん(神崎:左)と佐竹隆さん(東金田:右)。



←活気あふれるラッシュ時とは対照的に、のんびりと流れる時間が心地よい「お昼時」の車内。



↑「さあ、一日の始まり」通勤・通学で「なの」はな号に乗りこむ利用者たち。一日を終え、疲れた家路も、生活の一部としてホームで迎える。

「なの」はな号で
よりよいサービスを

地域のみなさまに愛される
身近な鉄道を目指して

快適なサービスも
まずは安全確保から

春の到来とともにスタートを切った「なの」はな号。これからはたくさんの方に便利な快適なサービスを味わっていただくために、まず重要なのが安全性の確保です。これまで「なの」はな号の運行開始までには、試運転が幾度となく繰り返されてきました。車両をはじめ、線路や遮断機などの設備面もきめ細かく点検・整備しています。さらに、制限スピードを厳守し、危険所にガードレールを設置するなど安全対策を徹底しています。

なくてはならない地域の財産

「もしも、へいちくがなくなったらどうしますか?」。今の世の